

るに、一性の運、兩年相續のことはあれども、五七年、然るを有卦無卦と書は假借なり、
續くべきことは有まじきよし、循環曆にみえたり、

〔頭書長曆〕中有卦無卦ハ十二運ヲ以テ吉凶ヲ分ツナリ、即有卦ハ胎ノ運ヨリ入テ、帝ノ運迄、此ノ
七ケ年ノ間ハ、萬事ニヨシ、又無卦ハ衰ノ運ニ入テ、絶ノ運迄也、此ノ五ケ年ノ間ハ、萬事ニ不吉也、
或書ニ始終ノ異說ヲ沙汰ストイヘドモ、吾師ノ不用ニ任セテ、予爰不能辨之、

〔百一錄〕元祿三年五月四日、主上山○東本院御所○明御有氣入、當年○庚水土兩性入有氣也、

〔宗建卿記〕享保十五年八月廿六日、今日主上被爲入有卦、有御祝、雖爲來月八日、爲御神事中、昨日入
九月節、仍今日有此儀、

〔續百一錄〕延享五年三月十一日、口上覺來八日、御有卦入御祝儀、禁裏様へ、御一統様方より可被獻
御色紙、文匣三ツ代拾八匁、臺壹ツ代六匁、合貳拾四匁ニ而御座候、右十方様ニ割、御一方様分貳匁
四分宛ニ而御座候、明日明後日兩日之内、西大路家へ御持可被下候、此段爲可申入如此御座候、以
上、

三月十一日

〔實久卿記〕文化十年八月十六日庚戌、今日、内裏御有卦、御祝儀有之、諸家獻物有之、又舞御覽有之、

厄年

〔拾芥抄下末〕厄年十三 二十五 三十七 四十九

〔鹽尻十二〕一我國厄年の說ありて、尊卑皆おそる、異邦にも亦年忌の說ありて、甚だ拘れり、我國四男

十二、女、異邦七歲、十六歲、三十四歲、四十三歲、忌年不同也、されば男は忌雙、女は忌隻と云ふこと、陣
繼儒が群碎錄に見へて、北齊の李渾が弟繪、六歳にして入學を願ひしに、家人等、偶年の俗忌を以
て許さざりし事あれば、其來る事も久しと見ゆ、冠笄の吉禮にも、男は偶年を忌、女は奇年を忌と
す、すべて禍福命あり、俗忌に玄たがひて、おろかにこれを信せんや、嗚呼惑へる哉世の人、

〔燕石雜志一〕丙午○中略